



# 大槌

2

2015. 2. 5

広報おおつち NO.600

読み継がれ伝え継がれて600号  
復興通信

私たちがつくる私たちの新しいまち  
～①沿岸営農拠点センター

産業復興だより

公共交通コラム

おおつち海の勉強室

ひょうたん島日記





# 大槌

広報おおつち NO.600  
2015年2月5日

## 目次

- 3-5 広報おおつち 600号  
「私と広報」「広報紙の歩みと役割」
- 6-13 復興通信  
私たちがつくる私たちの新しいまち  
～①沿岸営農拠点センター  
産業復興だより  
株式会社 千田精密工業大槌工場  
第1回大槌町コミュニティ協議会  
公共交通コラム⑥  
おおつち海の勉強室⑦
- 14-15 環境整備課からのお知らせ ほか
- 16 大槌町地域包括支援センターのページ  
楽笑幸齢者になろう
- 17 保健だより
- 18 すくすく赤ちゃん  
PHOTO まちかど  
町長随想
- 19 ひょうたん島日記
- 20-21 教育委員会だより 城山の風 第84号
- 22-23 大槌町カレンダー  
まちのお知らせ
- 24 大槌学のすゝめ②②  
編集後記

# 読み継がれ伝え継がれて半世紀 試練乗り越え600号



大槌町の広報紙は昭和32(1957)年に「大槌町報」として創刊され、半世紀を越えた平成27(2015)年2月号の今号で、600号を数えることになりました。東日本大震災の時には、広報に代わる「災害対策本部情報」が編集され、必要な情報が切れ目なく届けられました。600号発行という節目の今回、広報紙の歩みを振り返りながら、広報紙の果たす役割を改めて考えました。

表紙の写真：平成27年の大槌町成人式＝1月11日、町城山公園体育館

定点観測 (2015年1月17日、城山から)





第1号



■当時の人口 1万9668人  
■主な記事 ▼大槌町財政再建計画の概要

第100号



■当時の人口 2万1943人  
■主な記事 ▼町民センターいよいよ建設へ▼大槌ライオンズクラブ結成▼大槌の民話④

第200号



■当時の人口 2万1376人  
■主な記事 ▼「よ市」今年も盛大に開催▼県民大会サッカーが大槌で開催▼食中毒を防ぐために

第300号



■当時の人口 1万9604人  
■主な記事 ▼全国のひよっこりひよたん島紹介▼城山公園体育館で第10回郷土芸能発表会

第400号



■当時の人口 1万8194人  
■主な記事 ▼廃止路線代替バスと患者輸送バスを一元化▼杉山隆一さんから少年にサッカー指導▼パソコン講習受講者募集▼4月生まれのすくすくアイドル

第500号



■当時の人口 1万6326人  
■主な記事 ▼浪板海岸で海開きの神事▼東大海洋研が一般公開▼ふるさと大槌会参加者募集

# 私と広報

## 「懸け橋」をつなぐ人たち

行政連絡員協議会長

金崎 潔さん

先人が育んだ広報を大事に文字を大きく読みやすく

「行政連絡員として広報紙の配布を始めてから30年近くになります。行政を結ぶ広報の役割は、震災後、一層重要になり、その重みを感じながら配布しています。広報は住民にとって貴重な情報源です。皆さん、先人が育んだ広報を大事にしてほしいと、思っているのではないのでしょうか」

声の広報「そよかぜ」代表  
岩間眞樹子さん

待っている人いる限り続ける  
難解な表現は避けて

「声の広報は目が不自由な方を対象に、11年半ほど前の平成15年9月から始めました。現在5人のメンバーがボランティアで活動を続けています。震災後、空白の期間が続きました。しかし、声の広報を待っている人たちがいる、終わらせてはならないと、震災から約1年後に再開しました」



「そよかぜ」のメンバーと岩間眞樹子さん(左端)

大槌町老人クラブ連合会  
事務局長 小林敏子さん

広報で知る故郷の情報  
震災の教訓継承する記事を

「震災で内陸に避難し、夫と花巻市内の見なし仮設住宅に住んでいます。町の様子を知るには、広報紙が一番の情報源。毎月、郵送されてくる広報が待ち遠しく、届いた広報はすべて取り置いています」

「『すくすく赤ちゃん』のコーナーは、ほっとする。慶弔欄は、故郷の知人の動静を知るうえで必読です。読まれてこそその広報ですので、お年寄りに読みやすいように、文字を大きくしてほしい。身近な町民をもっと取り上げてほしい。震災の教訓を次世代に継承するよう、震災を忘れず風化させないような記事が載せてほしいと願っています」

## 広報紙の歩みと役割

町の広報紙は、昭和32(1957)年2月20日に「大槌町報」として創刊されました。当初は年数回の発行でした。年月を重ね、昭和50年代に月1回発行が定着し、昭和51(1976)年5月に「第100号」発行を迎えました。単色(モノクロ)だった広報は、平成2(1990)年10月号から二色刷りになり、平成12(2000)年4月号から表紙だけがカラーになりました。全頁が多色刷りのフルカラーになったのは、平成15(2003)年4月号からでした。

民の方々と行政が復興情報を共有し、心を一つにして前進することが必要です。広報紙の使命は、震災後一層、重みを増しています。広報紙は「通常号」を5日、「お知らせ号」を20日に発行しています。通常号発行直後の「編集会議」で次号の編集内容を決め、取材に入ります。記事は、広報担当者や町役場の関係各課から出稿されます。また、復興情報の一部は、取材、編集を外部に委託しています。

広報発行が危機に陥ったのは震災の時でした。広報に代わる「大槌町災害対策本部情報おおつち第1号」が平成23(2011)年3月26日に発行され、9月20日の第29号まで続きました。広報が復活したのは、震災から約7カ月後。10月5日発行の10月号からでした。

各課からの原稿の締め切りは、月の半ばごろ。原稿が出そろったと、編集部のDTPで組み上げます。組み上げたゲラや外部委託先からの原稿を点検、校正する作業が続く。月末に印刷会社で最後の出張校正をし、印刷製本に入ります。製本された広報紙は、行政連絡員から班長、班長から全世帯に配られます。

広報紙の編集は町役場総合政策課の2人が担当し、多くの人たちの協力により発行されています。



### 沿岸営農拠点センターの完成イメージ



# 私たちがつくる 私たちの新しいまち

## ～⑪沿岸営農拠点センター～



産地直売所やレストランがある大槌町の「沿岸営農拠点センター」が今秋、オープンすることになりました。センターは、どのような施設で、どんな事業が展開されるのでしょうか。地元の農家の人たちは、どんな期待をかけ、どのように利用しようとしているのでしょうか。

**産直の拠点が今秋オープン**

JAいわて花巻大槌支店は震災で被災し、現在、同じ場所に仮設の事務所を置いて営業しています。営農拠点センターは、この場所に建設されます。

鉄骨造り2階建てで、延べ床面積は1083平方メートル。建設事業費は3億1860万円。今年度中に着工し、今年8月に完成予定です。今年6月ごろに指定管理者を決定し、運営が委託される予定です。センターは、町内にある産地直売所の拠点になります。

センターの1階には産地直売所、製品加工室、レストラン、JAいわて花巻大槌支店、2階には営農研修室が配置されます。農産物の卸、販売、金融、農業に関する相談などが、センターだけで済むことになりました。

レストランでは、地元の食材が利用され、製品加工室では地元の農産物を使ったメニューが提供されます。

「私が子どものころ、農業は、苗づくり、田植え、稲刈りなど一連の作業を近所のみんなで手伝い合いながら共同でやっていました。昭和40年代に入り、農家でもサラリーマンになる人が出てきて兼業農家が増え、機械を自分の家で持つ自己完結型の農業に変わり、小規模で自給するところが増えていきました」

佐々木さんがグループによる酒米作りを提案したとき、自分の代で農業が終わってしまう、という危機感を持った年配者の方々が賛同してくれました。

佐々木さんは、センターがグルー

プで農業を営みたいと考える人たちの後押しを見ています。

「出品したものが売れ、農家もお客さんも利用しやすい施設になって欲しい。センターの場所は三陸縦貫道のインターチェンジにも近いし、大槌の玄関口として、にぎわいを作れるエリアになると思う。大槌に行ったら立ち寄ってみようかな、と思われる施設。大槌の農家と町民や、よそから来た人たちの交流の拠点になるような場所にしてほしい」



佐々木重吾さん

農家と客との交流の接点に

地元の農家の方々はセンターをどのように利用したいと考えているのでしょうか。町内で酒米づくりを中心に農業を営む佐々木重吾さん(57)に話を聞きました。

佐々木さんは現在7ヘクタールの田んぼで7人の仲間と酒米作りをしています。10年ほど前から、休耕田



物が使用され、まとまった量の流通が期待されています。さらに大槌では、園芸作物の生産が積極的に行われており、産直には多様な商品が並びそうです。



## 復興推進課からのお知らせ

### 住宅再建相談会を開催します

岩手県居住支援協議会（岩手県、市町村および業界団体などからなる協議会）では、関係機関などと連携し、被災者向けの住宅再建相談会を開催します。この相談会は、被災者に住宅再建に関する公的支援や融資、地域型復興住宅などの情報を提供するとともに住宅再建の専門家（ファイナンシャル・プランナーや建築士）が個別の相談に応じます。

#### ■日時・場所 2月22日（日）

- ①【午前の部】10：00～12：30まで【会場】役場仮庁舎（旧大槌小学校）3階大会議室
- ②【午後の部】14：00～16：00まで【会場】小槌第8仮設団地集会所（小槌21地割63番地、三枚堂橋下流）

- #### ■内容
- ・説明会  
住宅の自立再建に対する公的支援制度、住宅融資などについて説明します。
  - ・相談会  
公的支援制度、住宅融資、住宅再建関係について個別に相談対応します。  
※①②ともに事前申込および参加料不要です。直接会場にお越し下さい。

- #### ■問い合わせ先
- 岩手県県土整備部建築住宅課 Tel 019-629-5933  
復興推進課 建築住宅班 Tel 0193-42-8714

## 県営災害公営住宅（屋敷前団地）入居者募集（2次募集）のお知らせ

県では、災害公営住宅（屋敷前団地）の入居者を次のとおり2次募集します

#### ■募集団地

- ・団地 屋敷前団地 78戸（うちペット飼育可36戸）
- ・場所 大槌第14地割屋敷前（旧大槌中学校グラウンド跡地）
- ・構造 鉄筋コンクリート造 5階建て 3棟
- ・入居時期（予定）平成27年9月

間取り	募集戸数	家賃目安	申込可能世帯人数
1DK	3戸 うちペット可0戸	5,200～45,200円	単身または2人世帯
2DK	17戸 うちペット可17戸	6,400～55,500円	人数制限なし
3DK	51戸 うちペット可13戸	7,700～66,700円	3人以上の世帯
1DK（車いす対応）	4戸 うちペット可2戸	6,400～55,500円	単身又は2人世帯かつ原則、常時車いすでの生活を余儀なくされる方を有する世帯
2DK（車いす対応）	3戸 うちペット可2戸	7,700～66,700円	原則、常時車いすでの生活を余儀なくされる方を有する世帯

■募集期間 平成27年2月9日（月）から平成27年2月20日（金）まで（消印有効）

■受付窓口（土、日、祝日を除く）

- ・釜石地区合同庁舎3階 沿岸広域振興局土木部管理課（9：00～17：00〈TEL：0193-25-2708〉）または
  - ・盛岡市アイーナ2階（一財）岩手県建築住宅センター（9：00～17：00〈TEL：0120-208-201〉）
- ※大槌町役場2階環境整備課でも、申込書をお預かりできます（仮受付）。

■その他

詳しくは、募集案内をご覧ください。

募集案内は2月上旬から次の場所でも配布する予定（土、日、祝日を除く）です。

- ・県合同庁舎（土木部又は土木センター管理課）
- ・大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市、宮古市及び山田町（公営住宅担当課）
- ・岩手県のホームページからもダウンロードできます。

■問い合わせ先（一財）岩手県建築住宅センター（9：00～17：00〈TEL：0120-208-201〉）



No.6

## 「株式会社 千田精密工業 大槌工場」

～「ものづくりは人づくりから」挑戦続ける技術者集団～

株式会社千田精密工業（本社・奥州市前沢区）は、大槌町の誘致企業として平成6（1994）年11月に柵内に大槌工場を立地し、昨年、立地20周年を迎えました。大槌工場は平均年齢34歳の若い力45名が集い、本社工場、東和工場と合わせた3工場（合計96名）の中でも、設備、人員ともに同社の主力工場として位置付けられています。

同社が得意とするのは、少量多品種の精密加工部品製造です。半導体製造装置部品、自動車関連部品、航空機産業部品製造を大きな柱とし、難度の高い注文こそ断らずに社員みんなで挑戦する、という技術者集団です。

1990年代には、自動車レースの最高峰「F1」用レーシングカーに搭載するエンジンなどの重要部品を供給し、技術力が世界レベルにあることを証明しました。平成17年には、高度な接合技術である「摩擦攪拌接合」の国際ライセンスを国内中小企業として初めて取得しました。

この技術を大きな武器として、ニュートリノ発生装置の部品製作にも携わっています。岩手県へのILC誘致が実現すれば、「岩手県内企業の技術力を発揮するチャンス」と千田伏二夫社長の夢が広がります。

高度な技術に加えて、同社が大切にしているのが人材の育成と地域社会とのつながりです。「自らが自身自身を成長させる気持ちにならなければならない。そして一人一人が技術屋であり、社長でもあるべき」と

いう千田社長の信念のもと、国家検定制度のひとつである技能検定に挑戦する社員は多く、一級、二級に合格した技能士は全社員の約半数に及びます。

自社のためだけでなく、「地域社会の人たちと一緒に生活して、つながっていくために事業がある」という千田社長の考えから、地元コミュニティとの交流を大事にしています。大槌高校から毎年新入社員を採用して、大槌の未来を担う人材を育てていることもその一環です。

千田精密工業のものづくり精神には、最先端の技術を追いかけながらも、単なる技能追求だけではない、地元への思いや仕事への誇りという魂が宿っています。



完成した実験装置を説明する千田伏二夫社長（右から二人目）

株式会社千田精密工業大槌工場  
〒028-1131 大槌町大槌第12地割3-1字柵内  
Tel 0193-42-2880

## Topics

### 大槌消防署建設へ安全祈願祭～来年4月にオープン予定

大槌町の旧大槌中学校跡に建設される大槌消防署庁舎建設工事の安全祈願祭が昨年12月17日、現地で行われました。消防署の庁舎は鉄骨造り地上3階建てで、平成28年4月にオープン予定です。訓練棟、ヘリポートが計画され、敷地が確保されています。安全祈願祭では釜石大槌地区行政事務組合管理者の野田武則釜石市長と副管理者の碓川豊大槌町長が鍬入れし、碓川町長が「暮らしの再建には消防と病院の整備は欠かせない。震災当時のことを思い浮かべると、消防署の着工にこぎつけられて感無量」とあいさつしました。



鍬入れする碓川豊町長（左）と野田武則釜石市長（右）  
＝12月17日、大槌町大槌



## 町内の地域コミュニティ・各活動団体が「連携」について話し合い

## ～第1回大槌町コミュニティ協議会開催報告～

昨年12月3日(水)に開催された平成26年度第1回コミュニティ協議会の様子をお伝えします。自治会や町内会といった地域コミュニティとNPOや社団法人といった活動団体が、地域内での課題解決や地域活動における連携に向けた話し合いを行いました。今後も、各地域における復興の進捗は地域活動の実態に合わせて、必要とされる協議を行う予定ですのでご参加をお待ちしています。

## これからのまちづくりには連携がカギ

碓川 豊 大槌町長 (挨拶より抜粋)

平成26年3月に策定した東日本大震災津波復興計画基本計画の重点プロジェクトである「コミュニティ連携プロジェクト」中に、このコミュニティ協議会を位置付けております。本協議会では、皆様方の活動状況を見える化し、これからのまちづくりは各主体それぞれが連携し協力しあって、大槌あるいは自分たちの地区をより良いものにするという同じ方向に向かっていくことが非常に大事なことだと思っています。本協議会で、大槌のこれからのまちづくりについて、大いに議論してもらいたいと思っています。

## 課題解決は協議会の場から 大方 潤一郎 東京大学大学院教授 (挨拶より抜粋)

大槌町が復興を成し遂げるためには、住民と行政、そこに外部の支援団体の力や民間企業の力をうまく連携させてチームワークを組んで、効率良く新しいコミュニティ体制をつくり、着実に計画を実現していくことが必要です。この協議会では、このような方向で運営や協議を進めて頂ければと思っています。

## 情報を共有し連携することが大事 ～コミュニティ協議会のねらい～



課題の発見→共有→解決策→再び共有というサイクルを円滑にするため、参考事例やそれぞれが抱えている「課題」「情報」を共有し、ともに考える団体、連携したい団体や「人材」を共有し、その解決策に必要な助成金などの「お金」の情報を探します。これらのものを具体的に共有するためのプラットフォームとするのがこの協議会の趣旨です。さらに具体的に解決しなくてはならない問題については、別途分科会を設けることも考えています。



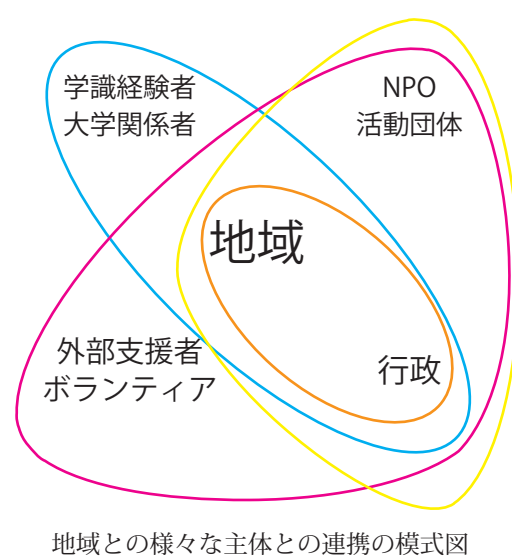
## 連携した取り組みの事例紹介

## 住環境点検 (大ケロ地区)

以前から街路灯が少ないという要望が住民から出ていたため、11月1日の地域復興協議会の中で住環境点検が開催されました。東京大学の学生も活動に協力し、実際に歩いて危険な箇所を確認しました。

## 吉里吉里プロジェクト

「元気いっぱい明日の吉里吉里プロジェクト」として予算を用いて外部専門家をコーディネーターとして、イベント、特産品開発、伝統芸能の伝承、子ども学習支援など様々な活動が展開されました。



## 花輪田地区ウォーキング

健康づくりと史跡探索の2つの目的で開催されました。また、地区内にある定住促進住宅の居住者との交流をはかるため昔遊び体験とバーベキューも併せて行われました。

## 桜木町地区ウォーキング

幅広い年齢の方が集まり、年齢に応じてコースを設定し、和気あいあいとウォーキングを楽しみました。ウォーキング前には役場保健師による血圧測定と健康についてのミニ講演も行われました。

協議会の後半では、地域コミュニティと各活動団体が、お互いの活動や現状を知り、今後の課題解決に向けて取り組むため以下の6つのテーマに沿って話し合う交流会が開かれました。

## 健康づくり・高齢者みまもり

- 自治会が行っていることや課題、その他
  - ・ウォーキング以外にも、サークル活動を各種行っている。自治会館では様々な活動が行われているようだ(自治会)
- 買い物支援について
  - ・買い物代行を行っている。3名/1台で活動。全地区から引き合いがあり、活動範囲は徐々に広がっている(活動団体)
  - ・買い物の支援を手伝えるようになりたい。ずっと支援団体が買い物代行を続けられるわけではないので、自分たちでも出来るようになりたい。(自治会)

## 環境づくり・花壇づくり

- 地域と団体の連携事例
  - ・沢山地域では、花と夢いっぱいプロジェクトを展開しており、一緒に花壇づくりを行った。(沢山町内会)
  - ・大ケロ災害公営住宅自治会では、遠野まごころネットに協力していただき、緑のカーテンづくりを行った。その結果、閉じこもりがちだった方も外に出ようになり、大変いい活動ができたと思う。(ワーカーズコープ)

## 観光・交流人口の拡大

- 活動の課題に関する意見交換
  - ・地元住民や外部ボランティアとの連携もあるが、一方でビジネスとしての観光について考えていくべきである。次回はその内容も協議したい。(活動団体)
    - 大槌らしい「資源」を使うことが大切である。森林組合と連携して、地元の木材を活用し、復興事業で必要となるバス停やベンチなどを大槌町産木材で作成してはどうか。(活動団体)
- アイデアとして出されたもの
  - ・大槌の資源を活用し、復興まちづくりに寄与する取り組みを行いたい。(活動団体)

## 仮設住宅での諸問題

- NPOなどの活動
  - ・いろんなことに取り組んでいる。3年以上経過して、支援慣れという問題も起きている。被災者の方々が支援を受けることに頼り切ってしまうのは好ましいことではないので、そのへんを配慮することが必要。(活動団体)
- 自治会の活動状況、問題点
  - ・48世帯あり、耕作地を借りて農作業を楽しんでいる。収穫祭も行った。NPO サンガ岩手の支援を受け、藍の栽培と藍染めに取り組んでいる。(小槌第2・17仮設団地自治会)

## 子育て・教育

- NPOなどの課題
  - ・子どもの遊び場だけでなく、様々な世代が助け合っている仕組みを模索している。
    - きっかけは自然発生が良い。イベントだけではそのとき集まるだけとなる。普段から交流促進して欲しい。人と人がつながり直接のコミュニケーションするのが一番良い。(地域団体)
- 今後の地域と団体との連携(マッチング)について
  - ・NPOのメンバーに、自治会の会議などに定期的に出て頂き、地域の状況を知ってもらえたら今後うまくコラボレーションできるかもしれない。(自治会)

## 防災・防犯

- 自治会の課題など
  - ・津波が来れば受け入れの必要が出てくることから、避難所運営など必要な備えはしていきたいと思っている。そのような自主防災組織設立への支援はないだろうか?(自治会)
  - ・町方の盛り土により地区の津波被害が広がると考える人が多く、地区住民の防災意識が高まっている。高齢者などの要支援者の対応についても検討しているところである。(自治会)

## 参加者の声 (一部抜粋)

- ・一堂に集まり、名前と顔が一致した。これから関係をつくる機会になって良かった。
- ・子育て分科会に参加したが、子供と高齢者の世代をこえた支え合いや未来の地域リーダーを育てる下地の話もあり、とても勉強になる機会であると感じた。

## 次回の予定

次回は3月17日(火)開催予定

今回は、各団体の活動シートを編集したものを公開し議論します。シートには、活動の取り組みや実績、将来展望、町内外でのつながりや活動場所が明記されています。多数のご参加お待ちしております。

■ お問い合わせ 総合政策課 42-8724



公共交通コラム  
「みんなの足はみんなで守る！」

第6回 みんなで取り組む交通まちづくり(その2)

交通ジャーナリストの鈴木文彦先生とともに、大槌の公共交通はどうかあるべきかを考えていくこのコラム。前回「公共交通とまちづくりが上手につながっている事例をいくつか御紹介いただきましたが、今回は、山口市の例を掘り下げ、考え方と個性的な取り組みを紹介いたします。

地域交通をいかに将来にわたって続けていくか。それにはみんなが「当事者」になって取り組むことが大切だということ、前回まで説明してきました。住民にとって、移動手段をどのようにつくり、守り、育てるかは、まさに自分自身の問題なのです。でも、「住民参加」とか「協働」と言っても、実際はどのようにすればよいのでしょうか。地域は違っても、基本的な考え方には共通するものがあるはず。そこで、山口県山口市で実際に進められてきた「住民主体の交通まちづくり」を少し詳しく見てみましょう。山口市は人口約19万人。山口県の県庁所在地ですが、盛岡市の約1.2倍の面積がある一方で人口は7割程度しかなく、大半は山間の過疎地域となっています。

幹と枝が伸び葉が茂る交通体系

山口市ではまず、行政・事業者・住民それぞれが交通まちづくりに取り組みやすくするところから始めました。市内全体の公共交通を、地域の拠点を結ぶ「基幹交通」、拠点から分岐して基幹交通をサポートする「支線交通」、基幹や支線との結節点を中心に生活ニーズに対応する「コミュニティ交通」に区分し、それぞれが適切な車両とサービスを提供する形を基本としました。しっかりと幹(基幹交通)から枝(支線交通)が伸び、それらに葉(コミュニティ交通)が茂り、相互に補完しつつ一本の木として育っていくという考えです。

そして、①基幹交通については事業者が責任をもって運



みんなでつくり上げたコミタク開業の朝、住民が集まって歓迎



結節バス停では路線バスとコミタクが目の前で接続

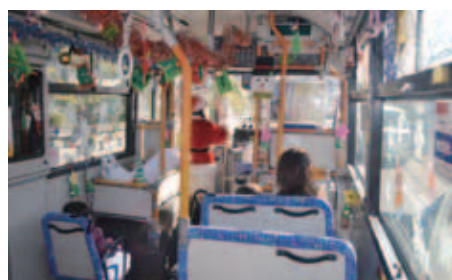
行を確保しつつ、全体のネットワークの根幹という考えから必要な支援は市が行う、②支線交通についてはネットワーク構築上必要なもので市が主体的に関わりながら、実際の運行は事業者が行う、③コミュニティ交通については限られたエリアなので地域住民が主体となって計画・運営し、運行は地域のタクシー会社などが行い、市は一定の範囲の補助と後方支援を行う、という役割分担を決めました。これに沿って現在、住民主体のコミュニティタクシー(コミタク)が市内8地域でスタートしています。生活交通が不十分な地域の住民は、まず任意で集まり、どんな交通手段が必要か、市職員と一緒に繰り返し勉強会をします。利用可能性や事業性も検討した上で、骨格ができてきたら地域で運営組織を立ち上げ、市と事業者を交えて計画を練り上げます。そして市全体での合意を得たうえで、まず実証運行を行い、その実績をもとにコミタクとして本格運行に移ります。過疎地域が多いので、運賃収入だけで黒字になることはありませんから、市が補助はしますが、赤字を全て補助する仕組みではありません。本格運行には乗車率(定員に対してどれだけ収入が得られるか)と収支率(経費に対してどれだけ収入が得られるか)それぞれ30%(条件の厳しいところは25%)を確保することという条件があります。これによって「住民ががんばっている地域に市が支援をする」ということになり、全市民的な合意ができています。

住民たちはこの基準をクリアするため、利用促進のための活動を行ったり、自ら広告を取りに回ったり、経営者感覚で無駄を省き収入を増やす努力をしています。コミタクを地域の「ライフライン」として維持するため、全世帯が払っている町会費から負担している地域もあります。そしてそれらによって住民のほとんどが「自分たちのコミタク」という意識をもつようになっていっています。

**笑顔になれる取り組み始める**

変わったのは住民だけではなくありません。基幹交通のバスを運行する事業者もコミタクとの接続に協力し、さらに増便などの利便性を高める取り組みを始めました。市や住民たちとの信頼関係ができたからこその変化だと思われる。当初は懐疑的な面もあったタクシー事業者も、今は地域と一緒に改善提案などを行っています。さらに、どうせやるなら楽しく、とばかりに、12月にはバスの車内を保育園児に飾ってもらい、サンタクロース姿の乗務員が運転する「クリスマスバス」「クリスマスタクシー」を運行するなど、「みんなが笑顔になれる」取り組みもされるようになっていきました。

もちろん、運営組織の住民の高齢化や後継者問題など、さまざまな課題もあります。でも、気軽にお出かけができることが地域に住み続けられることにつながり、ともに助け合う意識も高まってきました。歯車がよい方向に少しずつ回り始めています。



園児たちの装飾とサンタ姿の乗務員が笑顔を誘うクリスマスバス

交通ジャーナリスト 鈴木文彦



⑦ プランクトンは縁の下の力持ち

みなさん、「プランクトン」と聞いて何を思い浮かべますか? ミジンコやオキアミ(三陸での呼び名はイサダ)などでしょうか。それとも、具体的な姿は思い浮かばないけれど、肉眼では見えない水の中の小さな生き物といったイメージでしょうか。プランクトンの多くは顕微鏡で見ることの出来ないとても小さな生き物なので、魚や貝などと比べてあまりなじみがないかもしれません。ですが、プランクトンは海の生態系を支えるとても大切な役割を持つ生き物です。今回は、プランクトンとはどのような生き物なのかについてお話ししたいと思います。

プランクトンってなんだろっ?

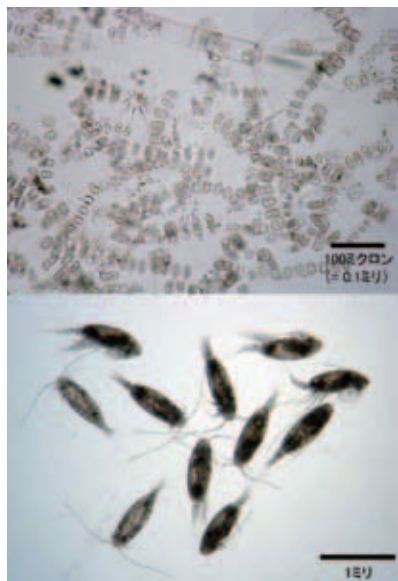
プランクトンという言葉の語源は「漂うもの」という意味のギリシア語で、学問上の定義では「大きな遊泳力を持たず、水の流れとともに漂う生物」を指します。つまり、プランクトンとは生き物の大きさや種類を表す言葉ではなく、生き物の生活のしかたを示す言葉なのです。ですから、プランクトンと呼ばれる生き物には、数ミクロン(1ミリの千分の一)に満たないバクテリアなどの微生物から大きさ1メートルを超えるクラゲの仲間まで

含まれることとなります。ちなみに日本語では「浮遊生物」と呼ばれています。

海の生態系を支えるプランクトン

プランクトンは、大きく植物性と動物性に分けることが出来ます。植物プランクトンは基本的に単細胞性で、細胞の大きさは数ミクロンから百ミクロン程度です(写真上)。植物プランクトンは、陸上の草木と同じように、太陽の光と水、そして水の中の二酸化炭素と栄養分から有機物を作り出すことが出来ます。海の植物というワカメやコンブ、アマモが一般的ですが、これらは岸近くのごく浅い海にしか生えることが出来ません。植物プランクトンは光のある海であればどこにも分布しています。地球表面の7割を占める広大な海では、植物の主役はプランクトンなのです。

この植物プランクトンを主に食べて生活しているのが動物プランクトンです。海の動物プランクトンにはたくさん種類が含まれており、大きさや形も様々です。その中でもカイアシ類(またはケンミジンコ)と呼ばれる仲間が最も多く出現します(写真下)。カイアシ類は、エビやカニと同じ甲殻類の仲間、大きさは1ミリ程度です。大槌湾では、春にカイアシ類が大量に出現し、その数は1リットルあたり百匹ぐらいになることもあります。



大槌湾で採集された植物プランクトン(上)と動物プランクトン(カイアシ類、下)



にしべ 西部 裕一郎  
1977年滋賀県生まれ。専門は動物プランクトンの生態学。元々は湖沼のプランクトンを研究していたが、海洋のプランクトンの多様性に魅せられフィールドを転向。沿岸から外洋まで幅広い海域を対象に動物プランクトンの生態を研究している。

深いプランクトンの世界を一度のぞいてみませんか?  
東京大学大気海洋研究所・国際沿岸海洋研究センター  
特任准教授 西部 裕一郎

**「質問コーナー」**  
皆さんからの質問をお待ちしています。住所、氏名、連絡先(電話番号など)を明記し〒028-1102 大槌町赤浜2-106-1 東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センターへ。ファクス0193(42)5612でも受け付けます。選ばれれば、次回以降のこのコーナーで質問にお答えします。



## 環境整備課からのお知らせ

### ▼浄化槽補助金の東日本大震災に係る特別措置について

町では、平成23年3月11日から平成31年3月31日までの間で、東日本大震災で被災された方が補助金対象区域外で設置する、または設置した浄化槽について、特別措置として補助金交付の対象とする制度を設けています。

申請手続きには、通常の申請時と同じ書類に加え、誓約書と罹災証明書の写しも必要となります。詳しくは、町ホームページをご覧ください。お問い合わせください。

環境整備課 庶務管理班  
Tel 0193 (42) 8722

## 農林水産課からのお知らせ

### ▼大槌町産材等利用住宅促進事業補助金制定のお知らせ

町では東日本大震災からの早期復興と地域木材資源の活用を目的として、大槌町産材等利用住宅促進事業補助金を制定しました。(県産材使用補助金への加算措置となります)。交付対象および金額は次のとおりです。

■交付対象  
①大槌町災害復興住宅新築等補助金の県産材使用補助金の交付を受け、使用した県産材に占める大槌町産材の割合が30%以上である。

②右記①の交付を条件として、町内に主たる事業所を有する建設業者により施工された住宅である。

#### ■交付金額

①20万円 ②10万円

(①+②で最大30万円、※①は単独での交付あり、②は①の交付が条件となります)

■大槌町産材の定義 大槌町内で伐採された木材もしくは大槌町内で製材加工された木材

■申し込み 町役場一階被災者支援室でお申し込みください。

■その他 平成23年3月11日以降に行われた新築工事などが交付の対象となります。

なお、詳細については左記問い合わせ先までご連絡ください。

農林水産課 農林班  
Tel 0193 (42) 8717

## 生涯学習課からのお知らせ

### ▼図書館協議会委員を募集します

図書館の運営などに関して意見を伺う機関として、図書館協議会を設置します。今回、任期満了とともに委員の一部を公募します。

■募集人数 若干名

■任務 委員会に出席し、図書館の運営などに係る意見を述べていただきます。

■任期 委嘱の日から2年間(平成27年4月1日から平成29年3月31日)

■報酬 委員会に出席した際、町の規定

により支給されます。

#### ■応募資格

①町内にお住まいで、平成27年4月1日現在、20歳以上の方

②調査審議する内容に関して十分な見識を有している方

■応募方法 住所、氏名、生年月日、電話番号、勤務先を記載した応募申込書と作文(応募の動機や図書館の運営などに関する意見を800字程度)を提出してください。

※申込書、作文用紙は様式を問いません。

#### ■募集期間

2月10日(火)から3月10日(火)必着

#### ■提出先

〒028-1121

大槌町小鎗32-126

生涯学習課図書班

図書班

Tel 0193 (42) 2300

## 学務課からのお知らせ

### ▼就学通知書を発送しました

大槌町教育委員会では、平成27年度に小学校および中学校へ入学予定の児童生徒の保護者の皆さまへ、1月に「就学通知書」を発送しています。まだ、お手元に届いていない場合は、お手数ですが学務課へご連絡ください。

また、指定学校以外への入学については、要件を満たしている場合に限り認められますので、あらかじめ学務課へご相談ください。

あわせて、就学に関する不安(病虚弱発育不全など)がございましたら、お早めにご相談ください。

#### ■学務課 学校教育班

Tel 0193 (42) 6100

## 消防課からのお知らせ

### ▼消防団員を募集します

町では、消防団の入団者を募集しています。

消防団は、「自らの地域は自らで守る」という精神に基づき、普段は自分の職業を持ちながら、平常時には地域の防火・防災の担い手として、また、災害発生時には消火・警戒などの消防活動を行い、地域の防災リーダーとしての役割を担っています。

近年、消防団員数は減少傾向にあり、高齢化も進んでいることから、将来の担い手となる若い団員の確保が必須となります。

今後、町役場職員や町内企業の社員らに入団を呼びかけ、消防団の活性化につなげるとともに地域防災体制の一層の充実を図っていきたくと考えています。

■入団資格 年齢18歳以上で大槌町に居住または勤務している者。

■入団方法 入団を希望される方は大槌消防署までご連絡ください。

#### ■大槌消防署

Tel 0193 (42) 3121

## 総務課からのお知らせ

### ▶大槌町東日本大震災津波追悼式のご案内

犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするため、下記のとおり追悼式を行います。ご遺族の皆さまには、ご参列くださいますよう、謹んでご案内申し上げます。

■日程 3月11日(水) ■会場 役場多目的会議室(旧大槌小学校体育館)

■時間 ・一般献花 9:00~12:00 / 16:00~17:00 ・追悼式 14:35~16:00

■駐車場 安渡地区の魚市場前に特設駐車場を設け会場までシャトルバスを運行します。駐車スペースに限りがあるため、自家用車のご利用は、なるべくお控えくださいますようお願い申し上げます。当日は、各地区から会場までシャトルバスを運行する予定です。(詳細については、広報2月20日号でお知らせします。)

■会場 会場の収容人員(800人)の都合上、定員になりましたらご入場を控えていただく場合がございます。ご理解くださいますよう、お願い申し上げます。

■その他 無宗教、献花方式で執り行い、ご参列されるご遺族の献花用のお花は町が用意します。ご参列は、礼服、平服いづれでも結構です。

総務課 総務班 Tel 0193-42-8710

## 保健福祉課からのお知らせ

### ▶町立安渡保育所の保育士を募集しています

町では、平成27年度に町立安渡保育所で勤務していただける保育士(期限付き臨時職員)を募集しています。

町立安渡保育所では、保育士不足のため、平成27年度から受け入れできない年齢(クラス)が生じる見込みです。町の未来を担う子どもたちのために、皆さまの御協力をお願いします。

#### ■主な勤務条件等

職 種	保育士
就業形態	フルタイム
雇用形態	正社員以外(期限付き臨時職員)
年 齢	不問
雇用期間	雇用期間の定めあり(～平成28年3月31日まで)
就業時間	交替制あり ○早番 7:30~16:15 ○通常 8:30~17:15 ○遅番 9:45~18:30
賃 金	日給 7,000円
賞 与	なし
通勤手当	実費支給(上限あり)
就業場所	町立安渡保育所(大槌町小鎗第22地割内)
必要な免許・資格	保育士または保育資格がある方

※詳細のお問い合わせ・御応募の相談は、下記連絡先までお願いします。また、正式な応募はハローワークを通じてお願いすることになります。

なお、町内の私立保育所などでも保育士を募集しています。

保健福祉課 地域福祉班 Tel 0193-42-8715

## 商工観光課からのお知らせ

### ▶3Dデータ活用講習会の開催について

3D-CADおよび3Dプリンターの活用講習会を開催します。初歩的な内容となっておりますので、パソコンの基本操作(マウス操作など)ができる方であればご参加いただけます。

■日時 2月18日(水)10:00~16:00 ■会場 町役場3階 中会議室

■対象 地域在住の求職者および在職者 ■定員 6名ないし6団体(1団体2名まで)

■講師 Office CADMS(北上市)

■主催 公益財団法人 釜石・大槌地域産業育成センター、国立大学法人 岩手大学三陸復興推進センター

#### ■申し込みについて

・期限 2月16日(月)

・申込書 所定の様式に必要事項を記入のうえ、下記の申込先へFAXにて送信してください。(様式は町HPから印刷または役場商工観光課にて取得可)

・申込先 公益財団法人 釜石・大槌地域産業育成センター Tel 0193-26-7555 FAX 0193-26-7557

商工観光課 商工・企業立地班 Tel 0193-42-8725



## 健診・相談・予防接種

健診・相談を下記のとおり実施します。会場は大槌町仮設保健センター（寺野）です。また、予防接種を受ける際には、予診票と母子健康手帳を忘れずにお持ちください。水痘（水ぼうそう）予防接種の会場は、大槌町役場多目的会議室（役場隣の体育館）になりますのでお間違えのないようご注意ください。

### 【12 ヶ月児相談】

- 実施日 2月18日（水）
- 対象者 平成26年1月生まれ及び平成26年2月生まれ
- 受付時間 9：30～10：00（平成26年1月生まれ）  
13：30～14：00（平成26年2月生まれ）

※対象者の人数調整のため、1月生まれのお子さんが午後の対象となる場合があります。個別に案内しますので、指定された時間にお越しくださるようお願いいたします。

### 【3 歳児健康診査】

- 実施日 2月13日（金）
- 対象者 平成23年8月生まれ及び平成23年9月生まれ
- 受付時間 12：00～12：30

### 【四種混合（ジフテリア・百日ぜき・破傷風・ポリオ）予防接種】

- 接種日 2月20日（金）
- 対象者 平成24年5月生まれ～平成26年11月20日生まれ以前（生後3ヵ月～生後90ヵ月）
- ※三種混合とポリオの予防接種を一度も接種していない者
- 受付時間 13：00～13：20

### 【水痘（水ぼうそう）予防接種】

- 接種日 2月24日（火）
- 対象者 平成22年3月生まれ～平成26年1月生まれ
- 会場 大槌町役場多目的会議室（役場隣の体育館）
- 受付時間 13：00～13：20

☎ 保健福祉課 健康推進班 TEL 0193-42-8715

## 平成26年度大槌町献血推進事業について

第3回目の献血を下記の日程で実施します。ご協力をお願いします。

- 実施日 2月16日（月） ■会場 大槌町中央公民館
- 受付場所 3階大会議室 ■献血場所 3階駐車場（献血車）
- 時間 午前 受付時間 9：30～11：30（献血時間 9：30～12：00）  
午後 受付時間 13：30～16：00（献血時間 13：30～16：30）

☎ 保健福祉課 健康推進班 TEL 0193-42-8715

## 認知症の方を介護する家族と支援者のつどい

認知症について悩みを抱えてまず、自分の悩みを話し、相談してみませんか。下記のとおり開催しますので、ぜひご参加ください。※参加費は無料

- 日時 2月26日（木） 13：30～15：00
- 会場 大ケ口多目的集会場（大槌町大ケ口一丁目5-5）
- 相談員 公益社団法人 認知症の人と家族の会 岩手県代表 小野寺 彦宏さん ほか
- 申込先 長寿課 地域包括支援班 TEL 0193-42-8716

☎ 沿岸広域振興局保健福祉環境部福祉課（担当：那須川）TEL 0193-25-2702

## 認知症について学び支えあう地域づくり講演会 について

沿岸広域振興局では、認知症についての正しい知識を理解するとともに、認知症の予防や介護について理解し、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らすことが出来る地域作りを目的に講演会を実施します。

- 内容 【講演】 認知症を理解し支えあう地域づくりを目指して  
～認知症の基礎知識、対応方法や予防方法、早期発見や治療法などについて～  
講師：大槌おおのクリニック院長 岩手県認知症サポート医 大野忠広医師

【展示】 セラピーロボット展示

- 日時 2月25日（水） 14：00～15：30まで
- 会場 シーサイドタウンマスト 2階 マストホール
- 申込み 参加費は無料です。事前に下記連絡先までお申込みください

☎ 沿岸広域振興局保健福祉環境部福祉課（担当：那須川）TEL 0193-25-2702

ここでは、高齢者に関わる様々な話題を掲載しています。

## 地域包括ケアシンポジウムを開催しました



# 「ここで暮らし続ける」

～ひとりひとりが地域の力～

### ◆ 基調講演

テーマ「生きる苦悩から生きる幸せ」  
講師：山梨学院大学 法学部  
政治行政学科 教授 竹端 寛氏

### ◆ フロアディスカッション

テーマ「高齢者の運転・移動を考える」



### 基調講演の スライド

### 「苦悩」を「幸せ」に変えるには①

- お金や健康、若さ…を他者と比較して「ないものねだり」をするのではなく、自分の中にある魅力や培った経験などを発掘する「あるもの探し」を、人の助けを借りながら行う。
- 高齢・病気・貧しい・一人暮らし…だから「何もできない」と無力感に陥らず、自分にも出来る役割があり、誇りをもち続けながら暮らし続ける。無力感に陥る人に寄り添い、その人の役割や誇りを取り戻すお手伝いをする。

### 「苦悩」を「幸せ」に変えるには②

- 「助けてください」と言えなるときは、人は自立している。それが言えないから、酒やパチンコ、家庭内暴力…などの依存にはまり込む。
- 「苦悩」を一人で抱え込むと、絶望になる。だが、信頼できる家族や友人、隣人にその苦悩を打ち明けると、苦悩と共に生きる術が見つかる。（苦悩の「わかちあひ」と「ときほなち」、苦悩からの「ひとりだち」）
- つながりの再生とは、「わかちあひ」と「ときほなち」「ひとりだち」を共に行うプロセス



大槌町地域包括支援センターでは、平成26年12月20日に地域住民を対象に、地域包括ケアシンポジウムを開催しました。

基調講演では、地域包括ケアシステムの構築・システムの推進を町全体として取り組む時期にきていること、行政だけではなく、自助・互助の関係を強化しながら、住民ひとりひとりができることを実行することも地域福祉につながっていく、「苦悩」を「幸せ」に変えることができるのではないかと山梨学院大学竹端教授は話されました。

参加者からは、「自分のあるもの探しをすることで、地域のためになることが見つかるかもしれない」「ないものねだりとあるもの探しの話は考えさせられた」「助けてください」と言えることが自立しているということがすごく印象に残った」といった感想をいただきました。

## 「自分たちから始められることがある。」

まさにこれから、みんなで一緒に地域の事を考えていきましょう。

☎ 大槌町地域包括支援センター TEL 0193-42-8716



# ひょうたん島日記

## 成人式で20歳の門出祝う ～詩の朗読や吹奏楽部の演奏～

平成27年の大槌町成人式が1月11日、町城山公園体育館で開かれ、20歳の門出を祝いました。式典は東日本大震災の犠牲者を追悼する黙禱で始まり、碓川豊町長が式辞を述べ、「今年には復興を加速させる年にしたい。さらに前進させるためには若い世代の力が必要だ。大海原で嵐に出合ったときには、良き友に相談し、良き本を参考に判断していってほ



しい」と励ましました。

新成人を代表して日大工学部2年生の前川昭平さんが「暗闇の苦しい中でも、希望の灯をともして前進してきた。苦しいことがあっても、自分自身を信じて乗り越えていきたい」と抱負を述べました。

式典後のアトラクションでは、中学校時代の写真が映し出され、当時の担任の教師が登壇して思い出を語りました。山形県酒田市の詩の朗読会の会員による宮沢賢治、吉野弘の作品の朗読があり、県立大槌高校吹奏楽部による演奏がありました。



続けてきましたが、震災後に中断していました。

しかし、同市からは、震災への励ましのメッセージや2千万円を超す義援金をいただいております。復興も徐々に進んできていることから交流事業を再開することになりました。

## 姉妹都市との交流を再開

### ～米国フォートブラッグ市を訪問～

東日本大震災津波後に途絶えていた米国カリフォルニア州フォートブラッグ市との姉妹都市交流を再開しました。1月6日から10日までの日程で、4名の中高生と5名の大槌町国際交流協会などのメンバーが同市を訪問し、支援に対する感謝を伝えるとともに両市町の今後の継続的な交流について再確認しました。大槌町からは支援に対する敬意として、同市に「絆の旗」を寄贈しました。

両市町は、ほぼ同じ緯度に位置し、サケ漁が盛んであることから、大槌町で平成9(1997)年10月に開催された「全国豊かな海づくり大会」に同市の市長を招待したことがきっかけで交流が始まり、平成17年10月に姉妹都市提携を結びました。互いに子どもたちがホームステイをするなどの交流事業を

## すくすく赤ちゃん

このコーナーでは、町内の1歳前後の赤ちゃんを紹介しています。今月は平成25年9月～12月生まれの赤ちゃんです。



きくち あきら 菊地 音未 ちゃん  
平成25年9月10日生  
ダンス大好き！おいしいもの大好き！元気に育ってね。  
(家族代表者名：菊地 網喜)



うすざわ はると 白澤 温人 くん  
平成25年10月22日生  
お兄ちゃんと遊ぶのが大好き。仲良く大きくなあれ！！  
(家族代表者名：白澤 亨)



むらかみ もも 村上 桃愛 ちゃん  
平成25年12月26日生  
いつもニコニコちゃんです♡早く髪が生えたらいいね♡  
(家族代表者名：村上 智章)



かなざわ うら 金澤 羽桜 ちゃん  
平成25年12月27日生  
よく食べ日々成長中！元気に育ってね！  
(家族代表者名：金澤 泰博)



ささき りあ 佐々木 莉杏 ちゃん  
平成25年12月31日生  
いつもおだづでめんけーわが家のアイドルりあです♡  
(家族代表者名：佐々木 秀靖)

## PHOTO まちかど



「安渡のすりきず公園に今年もイルミネーションが点灯しました。子ども夢ハウスおおつちが、地元の人たちやボランティアの支援を得て完成させました。暗闇の中で『ANDO』の文字が輝いています」【12月5日、三浦寧史さん撮影】



「NPOつどい主催の餅つき大会が旧役場庁舎近くの仮設店舗街の一角で開かれました。子どもたちも参加し、年末気分を盛り上げました。つきたての餅は、その場でキナコ餅などにして、みんなでほおばりました」【12月27日、伊藤陽子さん撮影】

## 町長随想

### ⑳ 冬来たりなば春遠からじ

いつの間にか正月も過ぎ、2月4日の立春を迎える。その前日3日が節分の日である。節分は「季節を分ける」節目を指し、立春・立夏・立秋・立冬の四季の変わり目に「立つ」とされている。毎年、節分を迎えると西欧の故事、イギリスの詩人シェリーの「冬来たりなば春遠からじ」の詩を思い出す。意味は、「つらい時期を耐え抜けば、幸せな時期は必ず来るといった」と。長い冬を耐えて春を待つ気持ちの表現としても用いられる。どんなに困難なことでも努力を続ければ、やがては成就するというたとえ(『デジタル大辞泉』)。

まちの復興計画(23年度から30年度)は、第一期(23年度から25年度)の実施計画(復旧期)を終え、昨年の4月から第二期(26年度から28年度)の実施計画(再生期)が始まっている。

かつて経験の無い想像を絶する瓦礫の撤去から始まり、土地区画整理、防災集団移転、災害公営住宅、産業の再生、医療福祉、教育環境整備など各種事業が展開されてきた。これまで町内各地での懇談会、意向確認、各種調査、基本計画、各種交渉、国県許認可、予算議決、詳細設計、入札や契約などの基礎業務を終え、諸課題を抱えながらも多くの皆様の御支援と御協力により復旧、復興が進められてきた。

これまでの復興期間は季節でいうと、寒く厳しい真冬の季節と似ている。未だ春の季節には遠いが、復興計画の折り返しの年度を迎え、町内各地で重機が本格的に動き始めている。復興の加速を車の運転に例えていうならば、今まではローだったギアが、これからセカンド、そしてトップに入ろうとしている。

先が見えない途方の無いことでも根気よく続けなければ必ず成せるという意味の「愚公山を移す」という中国の故事がある。これから先、様々な困難が待ち受けてはいるが節分で厄や災難を祓い清め希望の春を迎えたい。

碓川 豊





# 城山の風

発行：大槌町教育委員会 第84号 27. 2. 5  
岩手県上閉伊郡大槌町小槌 32 金崎 126 Tel 42-6100

教育行政基本理念

町づくりは  
人づくりにあり  
人づくりは  
教育にあり

## 小中一貫教育校の学園名決定

# 大槌学園 / 吉里吉里学園

今年4月に開校する小中一貫教育校の学園名について、広く公募しその結果を踏まえて1月の教育委員会議で決定されました。応募総数は272点に及び、大槌・吉里吉里両学園で最も多かった学園名について推進協議会において検討した結果、大槌中学校区は「大槌学園」、吉里吉里中学校区は「吉里吉里学園」が選考されました。



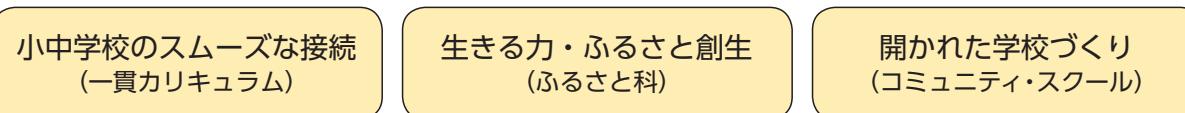
大槌学園：施設一体型小中一貫教育校  
崩壊したコミュニティを新しく作り出していく地域



吉里吉里学園：施設分離型小中一貫教育校  
既存の校舎を活用し、これまでのコミュニティの良さを維持し豊かにしていく地域

## 大槌町がめざす小中一貫教育

## 9年間を見通して「豊かな心」と「確かな学力」を育てる



(小学校課程)				(中学校課程)				
1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生
前期 (ホップ期) 4年				中期 (ステップ期) 段差の区切り 3年			後期 (ジャンプ期) 2年	



## 多様な活動を楽しむ ~大槌町こどもセンター~

大槌町こどもセンターは、震災により生活環境が激変した当町において、子どもたちが放課後を安心・安全に過ごせる居場所の確保を目的に NPO パレスチナ子どものキャンペーンの支援を受けて設置されました。

限られた広さですが、5人のスタッフに見守られながら勉強や遊び、運動などを行っています。また、県内外から来所されるボランティアの方々による様々な行事が行われており、子どもたちは多くの貴重な体験を積み重ねています。



地元のボランティアによる読み聞かせと琴の演奏会



話題のLEDを使ったオリジナルランプの製作教室

この他にも、バイオリン教室の開催、こま作りなどたくさんのご支援をいただきながら、子どもたちの放課後の居場所づくり、活動の場の提供を進めています。

## 小中一貫教育だより

## 工事の安全とスムーズな進行を願い

## 大槌学園建設工事安全祈願祭の実施 2月12日(木) 建設予定地

平成28年9月開校をめざす「大槌学園」の校舎建設工事の着工にあたり、安全祈願祭が執り行われます。

式典は、建設予定地である大槌高校のグラウンド

において行われ、設計・施工、町関係者に加え、児童生徒を代表して児童会長の齋藤愛さん、生徒会長の箱山輝之介さんも参加を行い、工事の安全と一日も早い完成を祈ります。

## 大槌町のコミュニティ・スクール (学校運営協議会制度の導入)

コミュニティ・スクールは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。

期待される効果

- 保護者・地域の学校への理解が進み教育活動への協力体制が広がる
- 地域の諸行事への児童・生徒・教員の参加が拡大する
- 地域の方々とのふれあいをとおして、地域の子どもの成長を支える

協働による拡充

「いわて型コミュニティ・スクール」：まなびフェストによる達成目標の設定・実践



# まちのお知らせ

## ふるさと大槌学講座 受講生募集

○大槌の人と自然－そのつながりを未来へ

■日時 2月8日(日) 13:30～15:30

■講師 秋道智彌 元大槌町復興まちづくり懇談会アドバイザー、(仮称)大槌メディアコモンズ(MLA)検討委員会委員長、総合地球環境学研究所名誉教授、国立民族学博物館名誉教授

○日本メルヘン街道 大槌・釜石～花巻・北上～秋田県五城目ルート

■日時 2月21日(土) 13:30～15:30

■講師 米地文夫 岩手県立大学名誉教授

■会場 中央公民館 大会議室

■受講料 無料

■対象 どなたでも

■申し込み 氏名・年齢・電話番号・住所・希望講座名を生涯学習課までお伝えください。

本講座は、文部科学省委託事業「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」の一つです。

☎生涯学習課 Tel 0193-42-2300

## 東大教室@大槌

中央公民館2階の「大槌文化ハウス」で公開講座を開催します。

○太陽系の教室－惑星や小惑星の探査と太陽系博物館

■日時 2月13日(金) 17:00～18:30

■講師 宮本 英昭 東京大学総合研究博物館・准教授(惑星科学)・はやぶさ2サイエンスメンバー

○空間の教室－コミュニティの再生と創出のかたち

■日時 2月14日(土) 10:30～12:30

■講師 松本 文夫 東京大学総合研究博物館・特任准教授(建築学)

■受講料 無料

■対象 高校生以上

■募集人数 各講座14人

■募集期間 各講座開催前日まで。ただし定員になり次第締め切り

■申し込み 氏名・年齢・電話番号・住所・希望講座名を生涯学習課までお伝えください。

☎生涯学習課 Tel 0193-42-2300

## 町内各地の放射線量についてお知らせします

町内の放射線量測定結果についてお知らせします。1月20日に測定した結果は下の表のとおりです。なお、国の除染基準は0.23毎時マイクロシーベルトです。

☎町民課 町民生活班 Tel 0193-42-8713

測定地点	放射線量	測定地点	放射線量
小鎗小学校仮設団地	0.068	大槌第5仮設団地(和野橋下流)	0.058
小鎗仮設団地(佐野屋球場)	0.073	金沢小グランド	0.058
大槌町役場	0.051	桜木町中央公園	0.060
安渡第2仮設住宅(旧小学校)	0.062	源水(屋敷前)	0.058
赤浜小学校グラウンド	0.060	大ケ口公園	0.071
吉里吉里中学校仮設団地	0.068	沢山地区(高森団地)	0.058
吉里吉里第5仮設団地(駅公園)	0.056	沢山地区(郵便局脇)	0.060
吉里吉里第2仮設団地(浪板)	0.060	花輪定住促進住宅裏	0.066
大槌第7仮設団地(大槌橋下流)	0.071	測定地点平均値	0.062

## おめでた・おくやみ(敬称略)

12月15日～1月14日分

【出生】

兼 澤 椛 心 (幸 男・大 ケ 口)

谷 地 宏 斗 (智 弘・吉里吉里四)

平 野 詩 (辰 五・大 ケ 口)

小 形 蒼 海 (啓 聡・吉里吉里三)

藤 原 優 斗 (大 輔・上 町)

植 田 琉 輝 (孝 行・上 町)

【婚姻】

{ 三 浦 正 幸 (前 段)

{ 留 畑 弥 生 (吉里吉里一)

{ 前 川 友 啓 (盛 岡 市)

{ 里 館 規 子 (安 渡 一)

【死亡】

上 野 殖 (79・安 渡 三)12/17

宮 ユ キ (96・安 渡 二)12/24

伊 藤 京 子 (83・大ケ口一)12/29

澤 山 ア ヤ (81・沢 山)1/4

菅 野 茂 樹 (71・吉里吉里四)1/6

高 橋 ミ ワ (87・浪 板)1/9

菊 池 正 道 (86・源 水)1/9

小 國 二 郎 (65・安 渡 一)1/11

山 崎 静 子 (80・白 沢)1/12

## ママたちのお茶っ「まんまるサロン」好評開催中です

手作りお菓子とハーブティーでほっこりおしゃべり。アロマのハンドマッサージでゆったりリラックス。お子さん連れ大歓迎のお茶っサロンです。岩手県助産師会の助産師がお待ちしています。お気軽にお越しください。

■日時 2月25日(水)10:30～12:30

■場所 上町ふれあいセンター

■参加費 500円(事前の申し込み不要です)

■対象 子育て中のママ、妊婦さん、妊娠を考えている方も大歓迎!

■内容 赤ちゃんの体重測定、子育て相談、母乳やミルク・離乳食の相談、ママ同士の交流、女性のこころとからだに関する悩み相談など

☎AMDА 大槌健康サポートセンター

Tel 0193-55-5421

## 人権相談について

身のまわりで起きた人権問題(いじめ、虐待、家庭内暴力、離婚、扶養、相続問題、近隣関係、セクハラ、借金問題、その他困りごと)について、法務大臣から委嘱を受けた人権擁護委員が相談に応じます。

■日時 2月20日(金)10:00～12:00 ■会場 大槌町役場1階 相談室2

☎町民課町民生活班 Tel 0193-42-8713

## 大槌町地域子育て支援センター「かりん」からのお知らせ

大槌町地域子育て支援センター「かりん」では、子育て親子の交流の場の提供や、子育て家庭への育児支援を行っています。2月の行事は下記のとおりです。お気軽にご参加ください。

「ひよこくらぶ」

■日時 2月12日(木)10:00～11:30

■対象 0～2歳半くらいまでのお子さんとその保護者(祖父母の方も可)

■内容 保健師さん、栄養士さんをお招きします。お子さんの身体測定、発育相談、子育て相談、食事・ミルクの相談など他にも気になることがあればぜひ相談にいらして下さい。遊びに来るだけでもOKです。

「臨床心理士相談」「かりんカフェ」

■日時 2月23日(月)9:30～12:00 13:00～14:30

■対象 未就園児とその保護者(祖父母の方も可)

■内容 臨床心理士の土屋先生もお招きしますので育児や心の悩み、家庭の悩みなど一人で抱え込まないで、是非相談にいらして下さい。専門的なアドバイスが頂けます。同時に「かりんカフェ」も開催。「かりんカフェ」では、温かい飲み物とお菓子を用意しています。毎日忙しいママさんのための「かりんカフェ」で一息つきましょう。

「ひだまり広場」

■日時 2月19日(木)10:00～11:30

■対象 未就園児とその保護者(祖父母の方も可)

■内容 大槌保育園のホールを開放します。広いホールで思いっきり遊びましょう。

◆のびのび広場(あそび・つどいの広場)◆

■日時 月曜日～金曜日(土、日、祝日除く)

9:30～12:00、13:00～16:00

■対象 未就学児とその保護者(祖父母も可)

みんなが自由に集える場。子育ては一人じゃない。みんなで育てる共有の場。そんなやさしい空間が「かりん」です。いつでもあそびに来てください。

※2月26日(木)午前中はお休みです。

☎大槌町地域子育て支援センター「かりん」  
Tel 0193-42-2570

## 大槌町カレンダー 2月5日(木)～3月5日(日)

日付	大槌町内イベント	大槌病院外来
5(木)		午前:内科、外科 午後:内科
6(金)		午前:内科 午後:内科
7(土)		完全休診(急患受付なし)
8(日)		完全休診(急患受付なし)
9(月)		午前:内科、眼科 午後:内科、整形外科
10(火)		午前:内科、外科、皮膚科 午後:内科、皮膚科
11(水)		完全休診(急患受付なし)
12(木)	さわやかストレッチ教室 元気活いき運動教室 心配ごと相談	午前:内科、外科 午後:内科
13(金)	3歳児健康診査	午前:内科 午後:内科
14(土)		完全休診(急患受付なし)
15(日)		完全休診(急患受付なし)
16(月)	元気活いき運動教室	午前:内科、整形外科、眼科 午後:内科
17(火)		午前:内科、外科、皮膚科 午後:内科、皮膚科
18(水)	12ヵ月児相談 3Dデータ活用研修会	午前:内科、皮膚科 午後:内科
19(木)	さわやかストレッチ教室	午前:内科、外科 午後:内科
20(金)	四種混合予防接種 行政相談、人権相談	午前:内科 午後:内科

日付	大槌町内イベント	大槌病院外来
21(土)		完全休診(急患受付なし)
22(日)		完全休診(急患受付なし)
23(月)		午前:内科、眼科 午後:内科、整形外科
24(火)	水痘予防接種	午前:内科、外科、皮膚科 午後:内科、皮膚科
25(水)	まんまるサロン	午前:内科、整形外科、皮膚科 午後:内科
26(木)		午前:内科、外科 午後:内科
27(金)		午前:内科 午後:内科
28(土)		完全休診(急患受付なし)
<b>3月</b>		
1(日)		完全休診(急患受付なし)
2(月)		午前:内科、眼科 午後:内科、整形外科
3(火)		午前:内科、外科、皮膚科 午後:内科、皮膚科
4(水)		午前:内科、皮膚科 午後:内科
5(木)		午前:内科、外科 午後:内科

※大槌病院外来日程は都合により変更となる場合があります。※心配ごと相談は、大槌町社会福祉協議会で実施しています。相談内容についてはお問い合わせください。  
☎大槌町社会福祉協議会 Tel 0193-41-1511

## 訂正のお知らせ

平成27年1月5日発行「広報おつち No.598」13ページの、生涯学習課からのお知らせの欄で、現在所属校に誤りがありました。下記のとおり訂正し、お詫び申し上げます。

(誤) 菊池 唯 【吉里吉里中】岩手県釜石商工高等学校2年生 ⇨ (正) 菊池 唯 【吉里吉里中】岩手県釜石高等学校2年生  
(誤) 関谷 麻緒 【吉里吉里中】岩手県立釜石商工高等学校2年生 ⇨ (正) 関谷 麻緒 【吉里吉里中】岩手県立釜石高等学校2年生



# 大槌学のすゝめ



## ② 虎舞所伝 香り高い郷土文化の継承と創造のために

lambは「子羊」のこと。幼い頃に口ずさんだでしょう「メリーさんのひつじ」はこのlambです。マザーグースの童謡、原題は「Mary had a little lamb, ran は雄羊。run はラム酒、過剰なとまた虎に。元ビートルズのポール・マッカートニーは、1972(昭和47)年に、同じタイトル曲を発表。原曲とは少し歌詞は異なりますが、fleece was white as snow は一緒。原曲では、雪のように白い綿毛と訳されています。このfleeceは羊毛のこと、今では誰もが着用するようになった「フリース」はここから。

羊にまつわる四字熟語やことわざ、たくさんあります。「十羊九牧」「牽羊悔亡」「多岐亡羊」「羊質虎皮」など。どれも耳が痛くなる思いです。その「羊質虎皮」、ことわざ辞典によると、外見だけは立派だが、それに実質が伴っていないことの譬え。知ったか振りをする、とんでもないことになるのが相場。落語の「千早振る」「鶴」「ちりとてちん」などに登場しますから、百も承知二百も合点でしょう。「大槌学のすゝめ」虎舞の起源では、どうやら、恰も虎の皮を被ったかのような「シッタカブリ」が出張ったようで、恐縮の極み。

「大槌学のすゝめ」で約束した「虎舞の起源」を。季節が春なだけに「百花繚乱」であれば嬉しいのですが、諸説入り乱れる様は愉えようもなく、まさに「多岐亡羊」。

気を取り直して、虎と虎舞に関する諸説のいくつかを。まずは、万葉集。柿本人麻呂の高市皇子尊への挽歌に、「虎可吼登、すなわち、「虎か吼ゆる」と登場。万葉集は7世紀後半に編まれたとされ、日本には生息していない虎はすでに認知されていくことになりました。

釜石浜町の尾崎神社。ご祭神は日本武尊。ここに閉伊頼基(平安後期から鎌倉前期)が合祀されています。この頼基に關係し、将士の士気を鼓舞するため、虎の着ぐるみを着せて踊らせた、という説。

「尾崎神社略記」に拠れば、遙拝所が元禄12(1699)年に造営され、この時に虎舞が舞われた、という説。

前川善兵衛の水主(船乗り)は山田の大沢地区に多くいて、大

坂まで行って「国性爺合戦」を観て舞踊化した、という説。本来、人形浄瑠璃から、であったはずのものが、歌舞伎からと口伝されている例。

寛永(1624~1645)の頃に山田の大沢から始まり、釜石の片岸に伝わり、天保(1830~1844)の頃に片岸から安渡に伝わった、という説。

幾度もの津波や震災などもあり、伝承に関わる古文書の類は残されていません。口頭伝承が長きに渡り行われ、いろんな話が混交するなどしたことは、想像に難くありません。

けれど、歴史から確実に言えることは、大槌氏が城山から睥睨していたおよそ280年もの時間がそこにあり、南部氏の謀計による大槌氏滅亡後は、代官所の時代が約240年という時間。ざっと520年もの間、我が大槌は、まさに沿岸部の政治や経済、交通、さらには文化の中心であったことは否定されません。その上、和藤内が「登場する」「しない」に拘わらず、大槌虎舞の形態が伝承されているエリアは、「大槌通り」と呼ばれる大槌代官所管内に他なりません。その文化創造と発展に大いなる功績を残したのは、かの前川善兵衛の活躍であったことも、紛れもない事実です。

これまで多くの研究者が、虎舞の起源を含め、調査を行ってきています。民俗学的なフィールド調査には自ずと限界があります。それでも、大槌の誇りである郷土芸能は、確実な未来に向けて舞い続けられ、伝承されていくことでしょう。

地方分権や地方創生、地方再生という言葉の「地方」は、田舎を指すものではありません。震災復興に向かう今こそ、地方に住む私たちが、声を発することが求められています。加えて、復興のまちづくりには、香り高い郷土の文化を育て、大槌の独自性をみんまで共有することも、善く善く有意あることではないでしょうか。

「群羊を駈つて猛虎を攻む」は、住民の結集結束が成せる技なのです。

大槌町教育委員会事務局生涯学習課長兼図書館長 佐々木健

## 編集後記

▼過去の広報を読み返していると、震災前に撮られた町の風景に目が留まり、懐かしさとともに喪失感を覚えます。震災後の広報からは、復興に向けて立ち上がろうとする町の強い姿を感じます。懐かしい大槌、復興に向かう大槌。そのどちらも私は素晴らしいものだと思います。(台野)▼創刊から58年。広報発行600号を迎え、過去の広報紙に目を通すと、当時の広報担当者が、いかに、「読みやすく親しまれる広報」をめざしていたかがうかがえます。広報は、行政と町民の方々を結ぶ懸け橋。震災後、一層、重い役割を担っています。歴史をたどり、改めて背筋が伸びる思いでした。(但木)